

433MHz帯タイヤ空気圧モニタ及び リモートキーレスエントリを用いた 実機試験(屋外)について

総務省総合通信基盤局電波部移動通信課

実機試験の場所と日程 (案)

■ 場所

- キョウセイ交通大学内キョウセイドライバーランド、定常円周旋回コース
- 所在地：
愛知県岡崎市須淵町字木の田38番地

■ 日程

- 2024年3月22日 午前より

キョウセイドライバーランド、定常円周旋回コース(20R)

レイアウト概要



実機試験の概要(案)

- アマチュア無線局のFM変調波による音声通話状態において混信の影響を確認する。
- アナログ信号発生器(実験試験局)からアマチュア無線局に対しFM変調の電波の発射を行い、アマチュア無線局はそれを弱電界で受信している状態にする。
- 全てのタイヤにTPMS(実験試験局)を装着した自動車を定常円周旋回コース上で走行させ、弱電界受信状態のアマチュア無線機においてTPMSから発射される電波により、混信等が発生するか否か、音声通話において支障があるかどうかについてテスト音声の実聴で確認を行う。
- また、RKEについては、アマチュア無線機でテスト音声等を受信した状態でRKEより電波を発射し、TPMSと同様に混信等が発生するか否か、音声通話において支障があるかどうかについてテスト音声の実聴で確認を行う。

実機試験の条件(案)

- 下記に実験の条件(案)を示す。

項目	条件	備考
アマチュア無線局の種類	ハンディー機及び固定機にアンテナを別に設置したものを想定	
アマチュア無線局の希望波の受信レベル	弱電界受信状態(12dB SINAD感度レベル)	SINAD計を用い、12dB SINADとなるよう測定値を観測しながらアナログ信号発生器(1kHzトーン、デビエーション3.5KHz)から発射する電波の強度を調節する。
与干渉機器とアマチュア無線局の距離	3~43m	アマチュア無線局のアンテナを定常円周旋回コースの外縁から3mの距離に設置し、車両が旋回することで、3~43mの範囲で変化する距離において試験を行う。
試験を行うTPMSの種類	1~3種程度	試験可能なTPMSの種類は、当日準備できる車両のメーカーとその台数に依存する。(1車両あたりTPMSは1種であり、現地でのTPMS部品の交換やタイヤの交換は不可。また異なる車両メーカー間でTPMS、タイヤの交換は不可)
試験を行うRKEの種類	3種程度	事前試験の結果をふまえ、混信の影響が大・中・小の3種を想定。
テスト音源	P501_C_japanese_m1_SWB_48k.wav (日本語・男性のSpeech音源)	ITU-T P.501 (2020) Test signals for use in telephony and other speech-based applications, Annex C - ITU-T P.800準拠アプリケーションおよび知覚に基づく客観的な音声品質予測で使用するために作成された音声ファイル。
評価・測定項目	<ol style="list-style-type: none">1. 混信状態におけるテスト音声の聴取の可否2. 混信状態における劣化したSINAD値(測定可能な場合に限る)	SINAD測定に関しては、SINAD計が測定するために必要な一定時間、混信状態を維持する必要がある。瞬間的な混信では、測定を行うことができないことがある。

実機試験系の概要(案)

